

## 〔畜産農家の声〕

# 高梁市有漢の養豚農場

## 梶山産業(有)

(備中県民局畜産第一班)

今回は高梁市有漢町の梶山産業でお話を聞いてきました。

昭和54年1月に梶田武良さんと山縣彰之さんの2人で梶山養豚として共同経営を開始、平成7年4月には法人化し、現在に至っています。『梶山』の社名も2人の名前を併せて名付けています。



【梶山産業の豚舎全景、右端手前が事務所】

現在の飼養頭数は繁殖豚170頭、子豚～肥育豚が1,600頭の一貫経営。肉豚出荷は全頭岡山へ。父豚はデュロック、母豚はランドレース×大ヨークの三元交配豚です。エサは流通飼料のみを用い、防疫対策にも注意を払い安全・安心な肉づくりに努めています。

ふん尿処理は全量を自家処理し、たい肥は全量を販売。縦型コンポで処理後、たい肥舎で3～4ヵ月切り返し、袋詰めでJAびほく、JA岡山東へ販売。農家からの注文、配達にも対応しています。

汚水は浄化槽で処理後に放流していますが、「今後排水基準が厳しくなった場合の対応が心配で、その場合には補助事業があれば助かるのだが。」とのことでした。

今後の経営には今以上の経費節減が必要だとのことですが、エコフィードについて

は手間がかかるし肉質が安定しないとの理由で取り組みはしていません。自動給餌機、除糞スクレーパーで省力化するとともに、分娩豚舎のウインドレス化で事故率の低減を図り、肥育豚舎の屋根材を断熱効果の高いものに交換するなどして頑張っておられます。

共同経営が解消された事例が各地で多く聞かれますが、梶田・山縣組で32年も継続している秘訣についてお伺いしたところ、「最初から2人でやってきたし、1人では休みたいときに休めないから。今後も共同経営を継続していくが、規模拡大は考えられない。」とのことでした。

最後にお二人から一言ずつ。

梶田さんから・・・経営開始当初は地域養豚の補助事業で豚舎やたい肥舎を整備してきました。現在ではほとんど無くなってしまった施設整備補助ですが、その復活を期待します。

山縣さんから・・・たい肥は「そだち」の名称で1袋300円/15kg。「おかやま畜産ひろば」ホームページの「岡山県畜産堆肥マップ」でも紹介しています。多くの方からの注文をお待ちしています。

(ご注文はまずお電話で EL:0866-57-2961)



【有漢、風の舞台に立つ石の風ぐるま】